

「鎌倉武士（かまくらぶし）の武器（ぶき）を学ぼう（1）」

鎌倉武士とはどんな人でしょうか？ 下の写真の欄に馬にのいながら、よろいを身に付けて、^{ゆみや}弓矢を使って戦う技を身につけた人たちを鎌倉武士とよんでいます。

『男衾三郎絵詞』
おぶすまぢぶろつえい」とば

この写真は、「馬に乗りながら弓矢をうまく使えるように自分の家で練習する武士」のすがたです。このように、馬をのりこなし、その馬上で弓をあやつる技を身につけることができるように、常に練習して戦う準備をしている人たちが鎌倉武士でした。

千葉市立郷土博物館では、鎌倉時代の武士の歴史や当時の鎌倉武士「よろいかぶと」を展示しています。
千葉市の郷土の歴史とかかわりの深い「千葉氏」や鎌倉武士のことをよく知ってほしいからです。
なお、このワークシートやクイズは、当館で作成した「クローズアップ鎌倉武士」を参考にして作りました。
鎌倉武士について興味がわいたら、ぜひ郷土博物館の色々なよろいかぶとの展示を見に来てください。

1 鎌倉武士がのっていたの軍馬(ぐんば)とは、どんなものでしょうか。

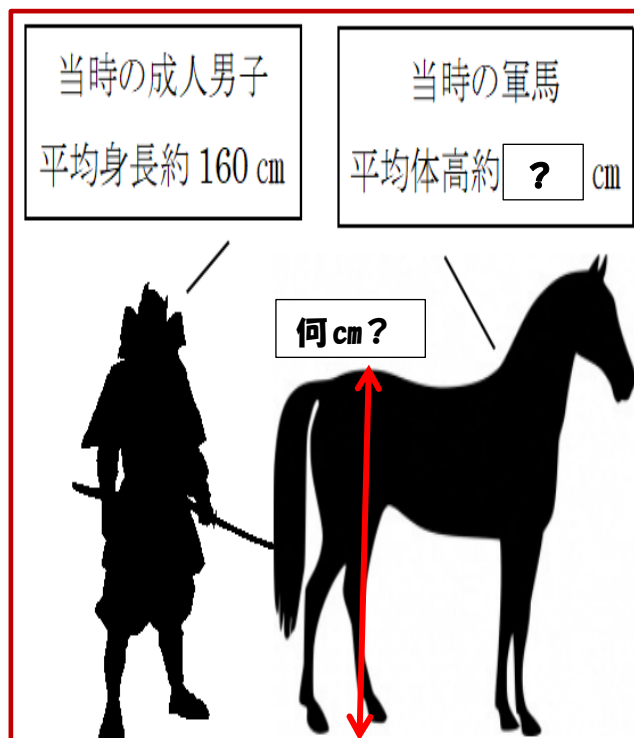
鎌倉武士にとって、馬は「動く兵器（へいき）」でした。そのために何よりも軍馬を大切にしました。ただし、今の馬とは大きさも走る速さも大きなちがいがありました。

当時の軍馬の走る速さ..

①およそ時速 40 km未満（自動車のゆっくりした速さ）
だそうです。現在のサラブレッドとよばれる競走用の
馬は平均 60 km（普通に走る自動車の速さ）ですから、
サラブレッド比べると、ややゆっくりですね。

当時の軍馬の動きは・・・

②当時の軍馬に、大鎧を着た武士が乗ると合計で 90 kg にもなりました。この重さで走るの、軍馬が全力で走ることができる距離は短かったのではないのでしょうか。馬が人を乗せたまま長い距離に行くことは、かなりむずかしかったと思います。



問題1 当時の軍馬の体の高さはどのくらいでしょうか？ 下の番号から1つ選んでください。

(ヒント)当時の大人の平均身長は約160cmくらいでした。

- ①約 100cm 男子4才の平均身長 ②約 130cm 小学校3年生の平均身長
③約 160cm 当時の大人の身長とほぼ同じ (答は 番)

2 鎌倉武士が使っていた主な武器は弓矢でした。

滋籐（しげとう）の弓（ゆみ）

上

下

握

にぎるところ

木と竹をはり合わせて、はがれないように籐（とう）という植物をまきつけて固定した弓です。弓にまかれた白い部分が籐です。弓の長さは2.3mで、にぎりは左手で持ち、持つところは弓の中心ではありませんでした。矢の速さは毎秒60mほどです。最も命中しやすい距離は、約13~14mでした。

問題2 滋籐の弓の矢の速さはどのくらい速いでしょうか？ 下の番号から1つ選んでください。
(ヒント・・・秒速60m×60倍×60倍にしてみましょう)

- ①時速約30km スポーツ自転車の速さ ②時速約60km ふつうの自動車の速さ
③時速約200km 新幹線(しんかんせん)の速さ (答は 番)

3 大鎧(おおよろい)について

鎌倉武士のよろいやかぶとは、**大鎧**
(おおよろい) とよばれています。

大鎧は・・・

頭の部分・・・①ほしかぶと

胴体部分・・・②せんだんのいた ③わいだて
④つるばしりのかわ ⑤おおそで
(左右) ⑥きゅうびのいた

足の部分・・・⑦くさずり

の3つの部分に分かれています。

平安時代の終わりに武士の戦いは、馬に乗った武士が弓で矢を打って戦うことが主な方法でした。大鎧は、その矢をふせぐために左の図の様にいろいろな部品を組み合わせで作られました。

重さは 問題1 ありますが、自分の頭・どう体・足から、勢いよく飛んできた矢を防ぐために、かなりがんにょうにできていました。ですから矢を防ぐ力は高かったと思います。

くわしくは・・・

「千葉市郷土博物館 学習支援コンテンツ」でけんさくして、大鎧の動画をごらんください。

問題3 大鎧の重さはどのくらいでしょうか？ 下の番号から1つ選んでください。

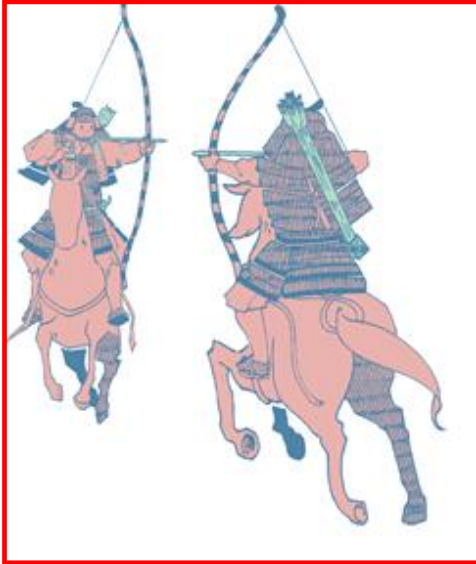
- ①5kg お茶のペットボトルの大きいサイズ3本分 ②10kg 約1才の子供の平均体重
③20kg以上 1年生の平均体重 (答は 番)

「鎌倉武士（かまくらぶし）の戦い方を学ぼう（2）」

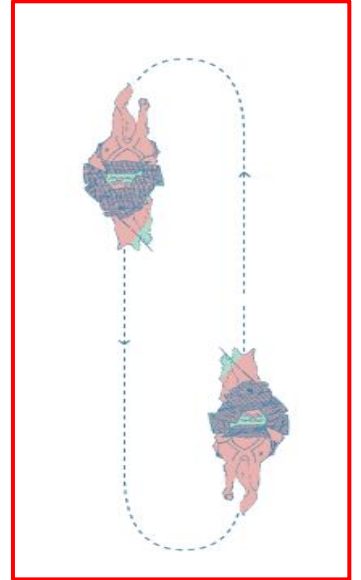
鎌倉武士の主な戦い方は、馬にのって弓矢を打ったり、太刀（たち）で戦ったり、ついには相手と組み合ってたおすような戦い方でした。

1 鎌倉武士はどのように戦っていた

①当時武士は、だれでもが、弓は左手で
持て、矢は右手で引きました。
ですから、常に自分の左側で相手を
打つようにしていました。



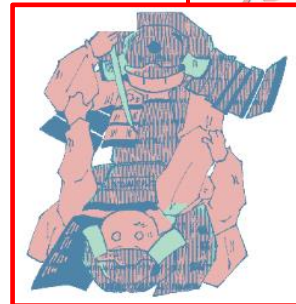
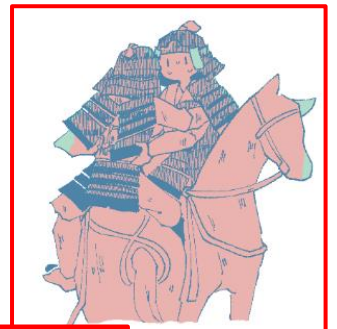
②弓矢を使った戦いは、最初に二対一の騎打ち
（いっきうち）でした。
ねらう所は、顔や首、わきの下などのよういの
すきまです。敵との距離を常に考えながら、
馬をめやつる技術が必要でした



③矢を使い切ったり、相手から申し込ま
れたら、太刀（たち）で戦います。



④太刀でも勝負がつかない時は、馬の上でつかみ
合いながら、馬から落ちて
も地上で組み合って、戦い
ます。



問題4 鎌倉武士の馬に乗った弓矢の戦いは、上の②の図では「左回り」でした。それはなぜでしょう？

上の図の説明をよく読んで、下に自分の意見を書きましょう。

（ヒント）上の①図で右手や左手は何をしているかよく見てみましょう。

2 鎌倉武士が戦いの時に使っていた太刀(たち)はどんなものでしょう？



太刀の使い方は・・・

- ①鎌倉時代の太刀は片手で使うようになっています。後の時代のものと比べると、太刀をにぎる所の「柄（つか）」が短くなっています。
- ②柄の先には、「手貫緒（てぬきのお）」というストラップのようなひもがつきます。これは打ち合った時に太刀が手から落ちないように腕を通す工夫がされています。

問題5 次の鎌倉武士の戦い方をあらわした文章の の部分にあてはまる言葉を の中から選んで文章を完成させましょう。使う言葉は1回限りです。

○弓矢の戦いは、右手で弓を引くので、必ず相手を 1 受けて戦う。矢が敵にとどく距離は 2 なので、相手との距離をいつも気つけていました。

○もし、敵から死角となる 3 に回り込まれた時は、すばやく遠ざかるか、弓のとどく距離とお互いの位置を考えて、 4 をあやつる技術がとても大切でした。

○戦いの間は、星兜（ほしかぶと）の 5 に、矢を打たれると大きなけがになるので、いつも注意していました。また、大鎧の 6 の顔や首周り、鎧のわきの下など、すきまを打たれないように気をつけました。

答えのらん

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

選ぶ言葉（1 つにつき、1 回だけ使います）

- 馬

○左に

○中

○12～13m

○右

○すきま

< クイズの答え >

「鎌倉武士（かまくらぶし）の武器（ぶき）を学ぼう（1）」の問題

問題1 大鎧の重さ 答え・・・③

大鎧の重さは22～26kgで、小学校1年生の平均体重26kgとほぼ同じくらいです。

問題2 当時の軍馬の体の高さ 答え・・・②

当時の馬の平均的な高さは129.5cmくらいで、今のポニーという馬と同じくらいです。

問題3 矢の速さ 答え・・・③

矢の速さは毎秒60mを時速になおすと216kmで、
新幹線の速さくらいになります。

「鎌倉武士（かまくらぶし）の戦い方を学ぼう（2）」の問題

問題1 鎌倉武士の弓矢の戦いは、なぜ左回りなのでしょうか？

答え・・・当時の武士は、左手で弓を持って、右手で矢を引くので、いつも相手を左側に受けて戦いました。矢が正確に当たるように、いつも相手との距離を意識して馬に乗っていました。

問題2 文章の に入る言葉

答え・・・①左に ②12～13m ③右 ④馬 ⑤すきま ⑥中